

令和 8 年 年頭ご挨拶

日本製薬団体連合会

会長 安川健司

令和 8 年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は日本の医薬品産業を取り巻く環境が急激に変化した 1 年でした。ドラッグラグ・ロスの解消や日本の医薬品産業の国際競争力強化に向け、「創薬力向上のための官民協議会」が開催、また 10 月に誕生した高市政権のもとで日本成長戦略本部が設置され、17 の戦略分野の中に「創薬・先端医療」が明確に位置づけられるなど、創薬力強化への機運は着実に高まりました。一方で、海外情勢の変化や関税、最恵国待遇政策といった米国政策の影響、日本の物価上昇や経済安全保障リスクなどは医薬品産業にとって大きな脅威となっています。

令和 8 年度薬価制度改革では、市場拡大再算定の「共連れ」ルールの廃止や医薬品の安定供給確保に向けた薬価の下支えの充実等が図られた一方で、物価・賃金上昇を反映した薬価改定の仕組みやシンプルな薬価制度の議論には至らず、今後も実現に向けた取り組みを継続したいと考えています。税制では、研究開発税制が一部圧縮されたものの、制度の基本骨格は概ね維持され、新たな類型が追加されたこと、またセルフメディケーション税制の対象範囲拡大等が実現したことについて前向きに受け止めています。

医薬品産業は、日本の基幹産業として国民の命と健康を支える国家のインフラであり、原薬・原材料の生産体制を含むサプライチェーン強化など「危機管理・安全保障」を支える上で不可欠な産業です。また高品質な医薬品の安定供給と革新的な新薬への迅速なアクセスを確保し、国民の健康に寄与するという使命を果たすには、継続的な投資を可能にする魅力ある市場とイノベーションが正當に評価される制度的な土壌があることが前提となります。日本が魅力的な市場とならない限り、新薬による国民のアンメット・メディカルニーズは満たされず、結果的に国民が世界の最先端医療を享受できないという状況になりかねません。今こそ、従来の枠組みにとらわれない大胆な発想で官民一体となって制度改革を進め、未来の医療と国の持続的な成長をともに支える体制を築くことが重要だと考えています。

しかしながらこのような制度改革を着実に進めるためには、業界の取り組みに加え、国民の皆様の理解と共感が不可欠です。社会保障制度の持続可能性という共通の課題について幅広いステークホルダーとともに理解を深め、建設的な議論が進むよう、引き続きアドボカシー活動を通じた情報発信と対話に努めて

参ります。

新しい連立政権の枠組みのもと、これら諸課題への取り組みに加え、本年は薬価の中間年改定の廃止、費用対効果評価等の論点整理の継続、昨今の国際情勢を見据えた医薬品の安全保障体制の確立に向けて取り組んで参る所存です。本年も本連合会の活動に対し一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様にとって飛躍する活力ある年になりますことを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(以 上)